

総評

所属 トータルケアセンター 氏名 安間孝明

今回の研究集会は、作業所学会の発足の大事な場でもありました。それに相応しい基調講演をして頂きました。安倍志郎先生の心に染みいる一言一言は、90を超える先生の福祉に向き合う人生から沸き上がる実践が裏付けた宝石のようなものだったと思います。

作業所学会は、単なる机上の理論集団ではありません。日々、いきづらさを抱えながら生きていく障がいのある人たちと共に悩みながら、今日をどう生きるかを模索する当事者を含む集団だと思いません。

安倍先生に個人的に私が抱えている方の支援について相談する機会を頂きました。その方は、両親も知的のハンディがあり、虐待を受け、20才で聴覚を失い、他県から静岡に来られ、単身で生活している方です。非常に傷つき安く、リストカットを繰り返し、自殺願望のある方です。

「どう支援したらいいんでしょうか」
の問いに先生は、暫く、黙し、そして、静かに言われました

「一緒に苦しみ続けるしかないでしょうね」と。

この答えに作業所学会のあり方の原点を見た思いがしました。

分科会は、就労支援部会へ参加しましたが、発表者の大石さんは、支援をしながら、アンケートを取り、よくぞ皆さんの思いを聞き取られたと感じました。

他の分科会の方々も同様な努力をされたことでしょう。私たちは、共に苦しみ、楽しみ、悩み、喜ぶ中から当事者の方の代弁者となる道を選んだ者達と自覚しています。今回の研修会がその一歩を踏み出すことができた事に全関係者に感謝致します。

